

同じ娘でも

宮本百合子

青空文庫

「御隠居様よ、又お清が来ましたぞえ何なりと買つてやりなんしよ」と頬を赤くして火を吹いて居下女の正は台所から声をかけた。「そうかえ」と云いながら茶の間から出ていらつしやつたお祖母様は、玉の大きいがんこな目がねを片ににぎつたまま中の　に行らつしやる。私も何かと思つてそつと後からついて行つて肩越にのぞくと年は私と同じぐらい、うすよごれた袷を着て去年の盆にかつてもらつたらしい下駄をはいて片手に包をさげたままではずかしそうに青い顔の頬のあたりをうすくれなにそめてうなだれて立つて居る。お祖母様は「遠慮しないでもいいよ、そこにおかけ今日は何を持って来たかえ」とおつしやると娘はだまつたままで

包を開くとライオンのふる箱の中に少し許ばかりの巻紙と筆と封筒が入
つて居た。「今日はもうこれ丈うれたのかい」とおっしやるとだ
まったままでうなずいて一寸私の顔をぬすみ見てはよれよれにな
った袂の先をいじって居る。お祖母様は水色の封筒を四つと三本
筆を一つ、細巻の状紙を一つ取つて「いくらだい」とおっしやる
と土間の石ころを見つめながら「二十六銭」ききとれないような
小さい声である。「硯の引出しから三十銭出しておつりはいいよ」
と云つて茶の間にお入りになると娘は中みのえった包を小わきに
かかえて丁寧なおじぎをして出て行つた。「お祖母様今の娘どう
したの」と早速うかがわずにはいられなかった。お祖母様は「今
の娘はねー、お前なんぞ夢にも見た事のない苦しい思をして居る

んだよ、あの子のお父さんと云うのは村で評判の呑ん平で一日に一升びんを三本からにすると云うごうのものなんだよ、それでおまけに大のずる助で実の子のあのお清に物をうらせて自分は朝から晩まで酒をあびて居てさ、にくらしいにもほうずがあるじゃないかねい、娘にそんな苦しい思いをさしておいてうれ高が少いと打ったり、けったりするんだと、もとはそれでもそうとうに暮して居たんだがきりようのぞみでもらった後妻が我ままでさんざん金をまいたあげくにさとに逃げて行っただものだからやけ半分でよけいにひどくなっただよ」とここまでおつしやつて一寸煙草を一服なさる。こんないやさしいお祖母様が長いきせるで煙草をのんで紫のけむりをわに吹いていらっしやる所はあんまり

につかわしくないと思つて紫のけむりの行方を見つめて娘の様子を思い出して居ると「それであんまり娘も可哀そうだから初めのうちこそ意けんもして見たが四十を越えた男のやけはもうなおるものでないと村のものももう意けんはしないが娘が可哀そうだからいらぬものでも持つて来れば十銭や十五銭はきつとかつてやるのさ」とおつしやつて「ほんとに可哀そうにねー」とつけたしをなさる。「ほんとにまあ、可哀そうだ事、それにずいぶんお父さんですこと」とお話が終ると一所に私の口からすべり出した。「家はどこですか」「あの一番池の北の堤の下の松林のわきにあるそりやあみじめな家なんだよ」とおつしやる。見えないとは知りつつ一番池のけんとうを見る。清の家はかげも形も見えなく只

向う山が紫の霞にとぎされているの許がはつきり目に見える。熟柿くさい息をハーハー吸きながら売上りの銭を目の前にならべて今日の売高がすくなくと小さい娘を叱かりつけて居る恐しげな父親の様子が思い出されて、娘が可哀そうだと思ふ心は尚々まして来る。そのよくよく日も四日許置いてからも又小さい包をもったお清の姿が水口の前にあらわれた。そのつどに小さい手にはいくつかの銭がにぎられた。

私の知つて居る人でやっぱりお清さんと云う名の人が居る。年頃も丁度同じくらいで。

東京のお清さんは大変しわ寄せで居る。

幾人もの女中にかこまれて心配な事と云えばお花見の前の空模

様ぐらい、それは、幸にくらして居る。

名も同じ年頃も同じ娘でありながらどうしてこう二人の身の上はちがうだろうと私は不思議でならない。父親がしっかりしないため、それは云わずと知れて居るけれども、私はどうしても不思議でならない。私も苦勞をしない娘だからかも知れないけれども、同じ娘でもこう違つても思うと何だか口をきいてみたいようになつた。今日はめずらしく国分の前でお清に会つた。私は口をきこうとして近づくと上目を一寸つかつて走りぬけて行つてしまつた。私はあの恐しげな父親は私と同じ娘をこんなにいじけさせてしまつたと思うと泣きたくなるほどうらめしかった。

三月二十八日

三度目にお清に会って

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集 第三十巻」新日本出版社

1986（昭和61）年3月20日初版発行

※底本解題の著者、大森寿恵子が、1912（明治45＝大正元）年もしくは1913（大正2）年の3月28日執筆と推定する習作です。

入力：柴田卓治

校正：土屋隆

2008年2月28日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www>

w.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

同じ娘でも

宮本百合子

2020年 7月12日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>